

令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立高砂小学校

(令和2年2月7日作成)

1 学校教育目標	
あかるく かしく たくましく	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
輝け、ひとみ 世界が舞台だ 高砂の子 (1)積極的な生徒指導の徹底 (2)学級経営を大切にした学習指導 (3)学年で取り組む教育指導 (4)健康体力の向上 (5)国際理解教育の推進	成果 ○市教委研究委嘱で幼保小中を一貫した教育の発表会を実施して、多くの方に参観していただいた。校区内の各校・園との連携がより一層進んだ ○教職員集団のPDCAサイクルでの振り返りを意識して、様々な改善に取り組んだ。 課題 ●幼保小中を一貫した教育に関する研究発表をふまえてこれまでの取組を整理し、さらにカリキュラムの充実を意識した教育の計画・実践が必要である。 ●特に業務改善を意識したPDCAサイクルの活用を進め、校務全般の見直しを図る必要がある。

4 評価表 ※評価基準「A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である」				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○学校経営方針が全職員に浸透し、教職員が一丸となって教育活動に専念することで教育活動を着実に推進できた。 ●職員の入れ替わりが非常に多く、共通理解・共通行動が徹底されていない場面がみられた。今後は情報共有の機会を確実に設け、共通理解を進めていきたい。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○「幼保小中を一貫した教育」に関する研究委嘱で、系統性を意識した教育活動が推進できた。市教委等の指導者を招いた体育科研究授業を複数回実施することができた。 ●これまで築いてきた高砂授業スタイルの共通理解・共通行動がとれるよう研究を進めていきたい。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○複合施設として、保育園・コミュニティセンター・児童クラブとの合同避難訓練を実施し、実践的な訓練ができた。 ●いつでも、どこでも児童が自ら判断して、命を守れる避難行動ができるようにしていきたい。

④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○情報管理・施設設備管理について日頃より危機意識をもって取り組むことができた。個人情報管理簿を活用して、適正な運用をすることができた。 ●使用したものが元に戻されず、活動に支障をきたす場面が見られた。各主任を中心に管理徹底を進めていきたい。
⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○算数タイムに保護者ボランティアが参加することで、家庭との連携が進んだ。地区参集訓練では、6年生の児童が参加し、実践的な訓練ができた。ホームページやメールシステムを積極的に活用して、学校の様子を周知することができた。また、各PTA行事、地域行事等に教職員も関わることができた。 ●様々な人材が豊富な地域であるが、十分に学校教育に取込めてはいない。学校応援団組織を見直し、地域との連携を進めていきたい。
⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○中学校区推進会議で、一貫教育の進捗状況を確認した。幼保小については、親子見学会や5年を中心にした交流活動（学習・給食）を実施し、連携が深まった。 ●一貫教育で深まった連携を効果的に継続させるために、交流内容の精選を図る必要がある。

(様式1・小学校用②)

草加市立高砂小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・15年間を通じた教育課程の編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保	A	○業前活動では、算数・読書の集中月間を設けて学力向上に努めた。算数に関しては保護者の補助が入り、活動も充実してきた。 ●実態に応じた教材開発、意欲を高める授業づくり、考えを深める発問の工夫など教員の指導力向上が必要である。
	②教科指導	・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用	B	○算数・体育で、一貫教育の視点に立った系統性を意識した指導ができた。 ●学力向上プランに基づく教科指導の徹底をより一層進める。
	③道徳教育	・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進	A	○匠の技研修会を実施し、授業の充実を図ることができた。よりよい授業づくりと評価に向けて、道徳ノートの活用を進めることができた。 ●計画的に研修を行うことにより、新指導要領に沿った授業改善を進める必要がある。

④外国語活動	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携	B	○ALTと3～6年担任が教材を実際に使いながら授業を行った。打ち合わせをしながら、外国語・外国語活動を実践することができた。 ●外国語に対する意識改革、研修の必要性がある。
⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	A	○たてわり活動を定期的に計画した。なかよしまつりでは、高学年が主体的に活動することで、低学年も楽しむことができた。 ●特別活動の授業づくりの基礎を校内で共有していきたい。
⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用	B	○ゲストティーチャーを招き、体験的な活動をおこなうことで、ねらいを達成することができた。 ●児童の思いを大切にしたい課題づくりを指導し、ゴールを明確にした学習活動を行う必要がある。
⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	A	○月一回の子ども支援委員会で、児童に関する情報を共有し、それを指導に生かすことができた。 ●学校内における、生徒指導の徹底、ルール of の共通理解を進めていきたい。
⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	A	○当番活動をはじめ様々な活動をキャリア教育の視点で捉え、活動することができた。様々なゲストティーチャーを招き、将来の目標を考えるきっかけとすることができた。 ●各学年の実態に応じた資料等を用いながら、キャリア教育の充実を図る必要がある。
⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○児童一人一人の実態を把握し、諸機関との連携を行いながら、推進することができた。草加かがやき特別支援学校との連携も進み、巡回相談や高等部カフェ交流など、新たな取組を進めた。図画工作の外部指導者を招いて、子どもたちの様々な可能性を引き出す教育活動のきっかけとした。 ●特別な支援を要する児童への理解、対応の仕方についての研修をさらに充実させる必要がある。
⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○司書教諭や学校司書及び学校応援団のボランティアを中心に、読み聞かせなどを充実させることができた。図書館教育掲示板の充実も図った。 ●親子読書など、家庭を巻き込んだ取り組みを考えていく必要がある。

⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	B	○ICT支援員と綿密に連携することで、新たな視点から授業づくりを行うことができた。デジタル教科書の有効な活用が見られ、児童の思考を深める授業展開が見られてきた。 ●プログラミング教育の本格実施に向けて、研修を進めていきたい。
⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	A	○校内研修等を通じて、教職員の人権教育への関心が高まった。 ●人権教育の充実を目指し、全体計画を基に、様々な機会を通じて啓蒙していく必要がある。

(様式1・小学校用③)

草加市立高砂小学校				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学校教育目標 あかるく かしこく たくましく の具現化	・指導計画の立案 ・組織的な対応 ・基本的生活習慣の定着	B	○挨拶の日常化を目指し、校内外問わずしっかりと挨拶ができるようになった。合わせて礼儀正しく行動することができるようになった ○コバトンのびのびシートや市学力・学習状況調査の支援システム等を活用して、総合的な観点から学力向上に取り組むことができた。 ○校内研修や体力づくりの常時活動の充実により、新体力テストの結果でも数値の向上がみられた。 ●さらなる学力向上を目指し、教科担任制や交換授業を取り入れるなど、チームでの指導体制を強化して、教育活動の充実に努める。
	②開かれた学校 家庭・地域・社会との連携	・計画の立案 ・環境整備 ・人材の活用	A	○NHKアナウンサーやパラリンピック選手、漁協職員、ハープ奏者など、各分野の第一人者をゲストティーチャーに招いた授業を行い、子どもたちの世界を広げることができた。 ○読み聞かせや丸付けのボランティアも活用して、教育活動への理解も併せて進めることができた。 ○ホームページやメールシステムを活用して、学校の様子を周知することができた。 ●総合的な学習の時間や生活科、クラブ活動などで活用できるよう、学校応援団の充実を図りたい。

	③働き方改革を柱とした業務改善	・時間外勤務削減 ・校務の精選 ・環境整備	A ○業務改善が教育活動の充実につながるという働き方改革の目的や意義を共通理解して、教員の意識改革を図った。 ○様々な資料の電子化、室内のレイアウトの効率化も進めるなどしたことにより、限られた時間内で効率よく校務が運営されるようになった。 ○これらの業務改善の結果、市内において時間外在校時間が最も低い割合になっている。 ●今後も学校教育の改善及び充実を目指し、草加市の新しい教育活動を高砂小から発信できるように努める。
--	-----------------	---	--

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・「幼保小中を一貫した教育」に関する研究を進める中で、系統性を意識した指導が児童の自己肯定感向上につながっている。
- ・日頃から教育活動に関心が高い地域性があり、読み聞かせや算数タイムの学習ボランティアとしての活動が充実していた。
- ・地域主体の地区参集訓練では、複数回の会議を経て、6年生との合同訓練が非常に充実した内容となり、実践的な訓練となった。

6 次年度の改善策

- ・人事評価制度を効果的に活用し、様々な職員の得意分野をふまえて、一人一役の校務分掌に生かしながら、チームとして学校教育の効果が最大限に発揮されるよう努める。
- ・コミュニティスクールの導入に合わせ、家庭・地域とともに、児童を育てるために開かれた学校づくりのさらなる推進を図る。
- ・教育活動の充実に向け、教科担任制や学年内交換授業の導入を進めることで、チームで児童の指導に当たることができる環境づくりを進める。
- ・幼保小中を一貫した教育の趣旨を継続するためにも、継続可能な形で幼保小中との交流を積極的に活用し、児童の豊かな成長につなげる。また、同じく瀬崎中に進学する瀬崎小との小小連携も進め、指導の充実を図る。
- ・働き方改革及び業務改善をさらに進め、新学習指導要領に対応する教材研究などの時間が十分に確保されるよう努める。そして、授業の充実から学力の向上につなげていきたい。